

文楽

人形浄瑠璃

〔主催〕文楽協会〔後援〕文化庁

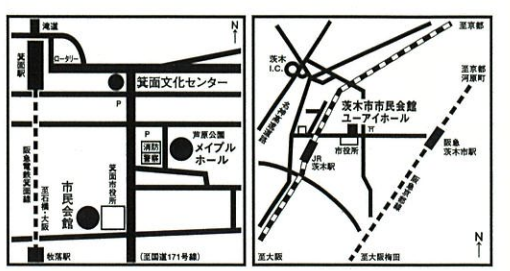
■第一部 伊賀越道中双六 沼津の段 初代鶴澤道八作曲 榎茂都陸平振付 釣女
 ■第一部 艶容女舞衣 酒屋の段 四代鶴澤重造作曲 藤間寿右衛門振付 紅葉狩



芸術文化振興基金助成事業

Photo by Hisao Kawahara Design and Illustration by Yukichi Asahara

府民劇場
第775回 平成10年3月3日(火) 箕面市立メイプルホール大ホール
 お問い合わせ: ☎0727-21-2123
第777回 平成10年3月11日(水) 茨木市市民会館(ユアアイホール)大ホール
 お問い合わせ: ☎0726-25-3055
開演時間: 第一部(昼の部)開演14:00 / 第二部(夜の部)開演18:30 [開場各30分前]
入場料: 一般2,500円 割引1,500円 [全席指定] (当日各500円増し)
 チケットのお求め: 各公演の会館 / チケットぴあ ☎06-363-9999ほか
 チケット発売開始日: 箕面公演12月12日 / 茨木公演11月17日 <※割引券は各公演の会館で販売>
 お問い合わせ: (財)大阪府文化振興財団 ☎06-449-5737
 主催: 大阪府 / (財)大阪府文化振興財団 / (財)箕面市文化振興事業団 / (財)茨木市文化振興財団



人形浄瑠璃

文楽

主な出演者: (大夫) 竹本住大夫〈人間国宝〉 / (三味線) 竹澤団七 / (人形) 吉田文雀〈人間国宝〉

第一部 (昼の部) 14:00開演

三味線解説

伊賀越道中双六 [沼津の段]

幼い時養子に出された息子と父親が偶然出合いますが、敵討ちがからんでいて、互いに名のることが出来ません。親子の情愛が伝わってくる舞台です。

ここは東海道沼津の街道筋。呉服屋十兵衛は雲助の平作に荷物を預けたのが縁で、貧しい平作の家に泊まることになります。話をしているうちに、十兵衛は平作が実の父親、その娘お米は妹と知ります。深夜、暗闇の中で、お米は十兵衛の印籠を盗もうとして気付かれてしまいます。お米は泣きながら、敵討ちをしなければならぬ夫が大怪我をしているが貧乏で治療費がない、印籠に入った薬が欲しかった、とあやまります。十兵衛は親子と名のらず、忘れたふりをして金と印籠を残し立ち去ります。

平作は残された書き置きで十兵衛が自分の子供であることを知り驚きますが、印籠はお米の夫の敵の持ち物であることが判ります。平作は十兵衛の後を追ひ、「この印籠の持ち主がどこにいるか教えてほしい。」と親子のことは触れずに頼み込みますが、十兵衛は義理ある人から頼まれたわけがあり、断ります。

それを聞いた平作は刀で腹を切り、「死んで行く者に話しても迷惑はかからないだろう」と頼むと、十兵衛は物陰に隠れているお米に聞こえるように、お米の夫の敵の行く先を話します。

「伊賀越道中双六」は曾我兄弟、赤穂浪士とならんで三大敵討ちといわれる、荒木又右衛門が助太刀した伊賀の敵討ちをモデルにしたものです。なかでも六段目にあたる「沼津」は名作で、しばしば単独で上演されます。

釣りおんな
釣女

京の大名が美しい妻をさづかりたいと、同じ未婚の太郎冠者を連れて西宮(兵庫県)の恵比寿神社に参詣しました。祈願のあと、うとうとしていると夢の中で「お前の妻になる者は西門にいる」というお告げがありました。二人が喜んで西門に行くと、一本の釣り竿が落ちています。恵比寿様は釣りが好きだから釣り竿で妻を釣れということだと思い、まず大名が釣り糸をたれろと美しい女性がかかりました。これを見て太郎冠者はあせります。太郎冠者が釣り糸をたれろと被衣をかぶった女性が釣れました。大喜びで被衣を取って見て、びっくり…

第二部 (夜の部) 18:30開演

人形解説

艶容女舞衣 [酒屋の段]

「今頃は半七様、どこにどうしてござらうぞ。」の名文句で知られる世話物の代表作です。

大阪の酒屋に嫁いだお園は、夫半七が女舞の芸人三勝と一緒に暮らして子供まで出来、家をかえりみないため、父親宗岸に実家に連れ戻されていましたが、半七が忘れられず、宗岸に付き添われ嫁ぎ先へ戻ってきます。しかし、半七の父親半兵衛は半七は勘当したので嫁はもういらないと断ります。半兵衛はお園を嫌っているのではなく、若後家にするに耐えられなくて冷たくあしらったのでした。宗岸は、半兵衛が人殺しの罪を犯した半七をかばって、代官所で厳しい尋問を受けたことを知り、子供を気遣う親の気持ちは誰も同じ、半七を思って泣き悲しむ娘がふびんだから元の嫁に戻ってほしいと、頭をさげて頼みます。

半兵衛夫婦が、捨て子だと思い預かった子供は、半七と三勝の子お通でした。お通の着物を調べると、半七が書いた「書置」が出てきます。お園に「未来は必ず夫婦になる」と述べ、お通の養育を頼んでいます。泣きながら読む人たちを、追われる身の半七と三勝が表戸口から見つめ、死ぬ場所を求めて立ち去ります。

もみじ がり
紅葉狩

今を盛りと全山紅葉の信濃戸隠の険しい山道を、平維茂が一人で歩いていると、どこからか優雅な琴の音が聞こえて来ます。よく見ると夕日に映える紅葉の向こうに幔幕が張られ、近付くと高貴な姫君が姿をみせて言葉巧みに誘われます。ふるまい酒と姫の舞踊に酔いしれた維茂が眠ってしまうと、夢の中に山神が現われ「ここで眠っているのは危険だ、早く逃げよ。」と告げます。姫はこの山に棲む悪魔だったのです。

もの凄い強風と共に、姫に化けていた鬼が姿を現わし、維茂に襲いかかってきました…

第775回 平成10年3月3日(火) 箕面市立メイプルホール大ホール

箕面市箕面5-11-23 (阪急「箕面」駅下車東へ徒歩7分) ☎0727-21-2123

チケットのお求め: メイプルホール☎0727-21-2123 / グリーンホール☎0727-23-2525 / 西南公民館☎0727-23-5222 / 箕面文化センター☎0727-21-1901 / 東生涯学習センター☎0727-29-1145 / チケットぴあ☎06-363-9999 (割引券はチケットぴあ以外の販売所で販売)

第777回 平成10年3月11日(水) 茨木市市民会館(ユーアイホール)大ホール

茨木市駅前四丁目7-50 (阪急京都線「茨木」駅、JR京都線「茨木」駅下車8分) ☎0726-25-3055

チケットのお求め: (財) 茨木市文化振興財団☎0726-25-3055 / ローソンチケット☎06-369-6633 (レコード:55427) / チケットぴあ☎06-363-9999 / チケットセゾン☎06-232-9999 (割引券は(財) 茨木市文化振興財団〈茨木市クリエートセンター1F〉で販売)

財団法人 大阪府文化振興財団 ☎06-449-5737(代表)

〒540 大阪市北区中之島3丁目2番18号住友中之島ビル内